

科目コード	33126	授業科目	周産期保健看護 I (Perinatal Health Nursing I)			担当教員	○井上松代 西平朋子 知念久美子 下中壽美 他		
						実務経験：あり			
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業	講義		
選択必修	必修	時間数	15時間	分類	(保・助・看)	形態			
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	産む性を選択した女性の周産期に焦点をあて、正常な妊娠期の身体的変化、心理的变化、健康生活を促進する援助方法や周産期における疫学的動向と対策について学習する。また、妊娠期の正常からの逸脱に関する病態生理や援助法についても学習する。								
到達目標	1. 周産期看護の目的、用いられる理論、母子保健統計等について説明できる。 2. 正常な妊婦の身体的変化、心理社会的変化について説明できる。 3. 正常な妊娠経過およびその過程にある人々の看護について説明できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	母性看護（周産期看護）のプリンシプル 1. 母性看護と周産期看護 2. 周産期看護への看護理論の適用 3. 周産期看護における理論と実践 4. 周産期看護で役立つ理論と概念					1. 第1章 (第1～第4節)	井上	講義	
第2回	女性と健康課題 1. 周産期におけるセクシュアリティ 2. 女性のライフステージと健康問題 母性看護（周産期看護）のプリンシプル 5. 法律と制度 6. 母子保健統計 7. 母性看護実践と倫理 8. 女性の選択と決定支援					1. 第2章	〃	〃	
第3回	妊娠期の看護 1. 妊娠経過のアセスメントに必要な知識と技術 2. 妊娠経過のアセスメント					1. 第1章 (第5～第8節)	〃	〃	
第4回	3. 妊娠期の健康課題と看護					2. 第1章 (第1～第2節)	西平	〃	
第5回	周産期にあるマイノリティへのケア 1. ドメスティック・バイオレンス被害者と性暴力被害者への支援 2. 子ども虐待の予防と早期発見 3. 在日外国人の母子保健					2. 第1章 (第3節)	〃	〃	
第6回	4. 災害時における女性と妊産婦・新生児への支援 1. 妊娠経過のアセスメントに必要な知識と技術 (学内実習：ユニフォーム着用、母性保健看護実習室)					1. 第3章 (第1～第4節)	井上	〃	
第7回	1. 妊娠経過のアセスメントに必要な知識と技術 (学内実習：ユニフォーム着用、母性保健看護実習室)					2. 第1章 (第1節)	知念 他	演習	
第8回	4. 妊娠期に起こりうる正常からの逸脱					2. 第1章 (第4節)	西平	講義	
第9回	周産期の想定外のストレス状況へのケア 1. 不妊治療後に妊娠・出産した女性と家族への看護 2. 先天異常を持つ子どもを出産した女性と家族					1. 第4章 (第1～第3節)	下中	〃	

	への看護 3. 周産期に子どもを亡くした女性と家族への看護			
テキスト	1.有森直子(編). (2015). 母性看護学 I 概論. 医歯薬出版. 2.有森直子(編). (2015). 母性看護学 II 周産期各論. 医歯薬出版. 3.医療情報科学研究所編集：病気がみえるVol.10 産科, MEDIC MEDIA			
参考文献	国民衛生の動向, 母子保健の主なる統計			
他科目との 関連	周産期保健看護実習 I と関連する。 本科目は保健師課程、助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。			
成績評価 の方法	試験80%, ALOHA note10%, プレテスト10%			
学習相談・ 助言体制	Office Hour：各講義終了後1時間			
授業改善の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALOHA noteを講義で活用する。</li> <li>・ 事例（場面）を提示しディスカッションを行いながら講義を行う。</li> <li>・ 講義内容を視覚で理解するために視聴覚教材・模型等を活用する。</li> <li>・ 学内実習は学生が主体的に参加し技術の修得ができるように2クラスに分けて行う。</li> </ul>			
備 考	事前学習としてテキストを読んで講義に望むこと。指定ページのALOHA noteを実施（予習）して講義に臨むこと。毎回講義開始前にプレテストを行う。 講義・演習中の写真撮影は禁止する（スマホ等携帯電話、デジカメ）。			

科目 コード	33127	授業 科目	周産期保健看護Ⅱ (Perinatal Health NursingⅡ)			担当 教員	○賀数いづみ 井上松代 西平朋子 知念久美子 下中壽美 橋口幹夫 (非常勤) 源川隆一 (非常勤)	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (助・看)	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	産婦並びに褥婦に焦点をあて、分娩経過や産褥経過並びに新生児について異常も含めて学習する。また、褥婦については心理社会的特徴や新しい役割獲得についても学習する。							
到達目標	1. 正常分娩の臨床経過および産婦に必要な援助が説明できる。 2. 正常な経過をたどる褥婦や新生児について理解し、必要な援助が説明できる。 3. 産婦・褥婦の心理社会的特徴について説明できる。 4. ハイリスク妊産褥婦の病態・検査・診断・治療及び看護について説明できる。 5. 新生児に起こりやすい異常やハイリスク新生児の診断・治療及び看護について説明できる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	分娩期の看護				ゆいノート(事前)	賀 数	講 義	
第2～5回	産褥期における看護 母乳育児と看護 褥婦の看護過程				1. 第2章 1. 第3章	知 念 下 中 井 上		
第6回	新生児期における看護				2. 第3章 36	”		
第7回	新生児の看護過程				1. 第4章 2. 第4章	知 念 ”		
第8～10回	ハイリスク妊産褥婦：常位胎盤早期剥離、前置胎盤、 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、異常分娩、胎児機能 不全、帝王切開術				1. 第1-3章 4 節 2. 第1章 7, 10, 12, 第2章 27-34 第3章 37-43	橋 口 ”		
第11回	ハイリスク妊産褥婦の看護				3. P82-177, 258-360, 368-378	西 平 ”		
第12～14回	新生児の生理・ハイリスク新生児：新生児合併症、 分娩外傷、低出生体重児、先天異常・障害をもつ 新生児、胎児機能不全				1. 第4章 4節 2. 第4章 2 3. P392-431	源 川 ” ”		
第15回	ハイリスク新生児の看護 (周産期関連統計を含む)					賀 数		
テキスト	1. 有森直子編 母性看護学Ⅱ 医歯薬出版株式会社 2. 佐世正勝/石村由利子：ウェルネスからみた母性看護＋病態関連図. 医学書院 3. 医療情報科学研究所編集：病気がみえるVol.10 産科, MEDIC MEDIA 4. 太田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医歯薬出版							

参考文献	<p>小林康江・中込さと子・荒木奈緒(編集):ナーシンググラフィカ母性看護学②母性看護の 実践、メディカ出版.</p> <p>荒木奈緒・中込さと子・小林康江(編集): ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護の 実践、メディカ出版.</p> <p>前原 澄子(編集) : 新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅰ 中央法規</p> <p>前原 澄子(編集) : 新看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ 中央法規</p>
他科目との 関連	<p>周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護実習Ⅰ、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱを踏まえて授業に臨むこと。 周産期保健看護演習及び周産期保健看護実習Ⅱに関連する。</p> <p>また、本科目は助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。</p>
成績評価 の方法	筆記試験70%、ミニテスト10%、ゆいnote 20%
学習相談・ 助言体制	ゆいノートの課題への助言及び毎回の授業の終了時に理解できなかった事項、疑問に感じ た事項等の質問を受け、次回授業時に説明を補足する。
授業改善の 特記事項	ミニテストを実施し、必要時解説を行う。
備考	<p>次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、ゆいノートを予習する。 周産期保健看護演習とのつながりを意識して講義に臨むこと。 テキストは最新版を使用します。提示の頁は変更の可能性があります。 講義・演習中の写真撮影は禁止する（スマホ等携帯電話、デジカメ）。</p>

科目 コード	33128	授業 科目	周産期保健看護演習 (Perinatal Health Nursing Seminar)			担当 教員	○西平朋子 賀数いづみ 井上松代 知念久美子 下中壽美 他		
							実務経験：あり		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目		授業	演習	
選択必修	必修	時間数	30時間	分類	(助・看)		形態		
履修 条件	前提科目	生活援助・療養援助技術実習 周産期保健看護実習 I 周産期保健看護 II							
	その他	なし							
授業概要	周産期保健看護 I および II をふまえ、産婦・褥婦および新生児をケアするために必要な看護の原則と方法などについて看護実践と関連づけて学習する。								
到達目標	1. 模擬事例を通して、正常な産婦・褥婦・新生児の経過からウェルネスの視点で看護計画が立案できる。 2. 産婦・褥婦・新生児に必要な基本的な母性看護技術を習得する。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業 形態		
第 1 回 第 2～4 回	分娩期の看護：分娩の進行に合わせた産婦の援助 産褥期の看護： ①褥婦の全身状態・子宮復古の観察とアセスメント (シミュレーションおよびディスカッション) ②母乳育児支援と産褥体操・家族計画				*テキストを全て読んでおくこと  *ゆいノートの課題を講義開講時に提示する	下 中 井 上 他	演 習		
第 5 回	新生児の看護①：胎外生活適応の評価					西平・知念他 知念			
第 6 回	新生児の看護②： ・新生児のバイタルサイン測定と計測 ・新生児の清潔と保温：沐浴・臍処置・保育器					西平・賀数 井上・知念 下中他			
第 7 回	看護過程 ①褥婦：計画発表とディスカッション					井 上			
第 8 回	看護過程 ②新生児：計画発表とディスカッション					知念・西平			
第 9 回	看護過程 ③計画の実施・評価・報告					下 中			
第 10 回	保健指導 ①褥婦：発表とディスカッション					井 上			
第 11 回	保健指導 ②新生児：発表とディスカッション					西 平			
第 12 回	帝王切開術後の看護					知 念			
第 13 回	技術試験 1：褥婦の観察と母乳育児支援					賀数・井上 西平・知念 下中他			
第 14 回	技術試験 2：新生児の観察と沐浴					〃			
第 15 回	技術試験のふり返り					〃			

テキスト	<p>1.有森 直子 編著：母性看護学Ⅱ周産期各論，医歯薬出版</p> <p>2.佐世正勝/石村由利子：ウェルネスからみた母性看護＋病態関連図，医学書院.</p> <p>3.医療情報科学研究所編集：病気がみえるVol.10 産科，MEDIC MEDIA.</p> <p>4.太田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程，医歯薬出版</p>
参考文献	<p>小林康江・中込さと子・荒木奈緒（編集）：ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践，メディカ出版.</p> <p>荒木奈緒・中込さと子・小林康江（編集）：ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術，メディカ出版.</p> <p>前原 澄子（編集）：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規.</p> <p>前原 澄子（編集）：新看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規.</p> <p>有森 直子 編著：母性看護学Ⅰ 概論，医歯薬出版.</p>
他科目との関連	<p>周産期保健看護Ⅱの講義で得た知識をもとに、看護過程の展開、保健指導、看護技術を習得するための学習を行なう。</p> <p>本科目は助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。</p>
成績評価の方法	<p>講義への参加度（発言・提出物・他）10%、保健指導（褥婦10、新生児10）20%、技術試験（試験1：30、試験2：20）50%、看護計画立案（褥婦10、新生児10）20%</p>
学習相談・助言体制	<p>毎回の講義終了後に質問を受ける時間を設ける。</p> <p>講義時間外でも技術練習ができるよう実習室を開放する。指導が必要な場合に教員と連絡がとれるよう担当教員の指導可能時間と連絡先を提示しておく。</p>
授業改善の特記事項	<p>ゆいノートを演習で活用し、学生の学習状況を把握する。</p> <p>少人数制の指導を行なう。</p> <p>臨床で多く遭遇する場面や事例を選定するなど況設定等を工夫し、演習と実践が結びつくように促す。</p> <p>学生の主体的参加を促すためにディスカッションを行いながら演習を進める。</p>
備考	<p>1.看護過程（褥婦、新生児）の課題は、発表・ディスカッション終了後の指定された日までに提出する。</p> <p>2.保健指導（褥婦、新生児）用のパンフレットは、発表・ディスカッションをふまえてグループメンバーで追加・修正を行った後、実習初日に実習担当教員へ提出する。</p>

科目コード	33133	授業科目	周産期保健看護実習 I (Perinatal Health Care Practicum I)			担当教員	○井上松代 賀数いづみ 西平朋子 知念久美子 下中壽美 他	
		実務経験：あり						
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業形態	実習	
選択必修	必修	時間数	45時間	分類	(保・助・看)			
履修条件	前提科目	周産期保健看護 I						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。						
授業概要	社会に支えられながら地域で生活している妊婦の特徴やアセスメント法、ならびに支援方法について実習を通して学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦やその家族の人格を尊重した関わりができる。</li> <li>2. 妊娠の経過に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる。</li> <li>3. 妊婦の健康診査に必要な基本的看護技術が実践できる。</li> <li>4. 妊娠期の保健指導について説明できる。</li> <li>5. 母子保健医療チームにおける外来看護師の役割を説明できる。</li> <li>6. 実践したことを振り返り、自己の課題を見出すことができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
5日間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の健康診査の実際を学ぶ (血圧・体重測定、腹囲・子宮底測定、腹部触診、胎児心音聴取、浮腫の観察など指導者の指導のもと実施)</li> <li>2. 妊婦とのコミュニケーション、カルテや親子健康手帳から、妊婦の日常生活、身体的・心理的・社会的変化を情報収集する</li> <li>3. 外来で行われている保健指導の実際を学ぶ</li> </ol> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 妊婦の健康診査 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊婦を受け持ち、外来受診から終了まで同行する</li> <li>2) 健康診査の項目について指導者の指導のもと実施する</li> <li>3) 保健指導の見学</li> <li>4) 受け持ち妊婦についてアセスメントを行う</li> </ol> </li> <li>3. カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 毎日行い、学生間で知識や体験を共有する</li> <li>2) 実習最終日は学内で行う</li> </ol> </li> </ol>						井上 賀数 西平 知念 下中 他	
テキスト	実習の手引き2年後期 「周産期保健看護実習 I」							
参考文献	周産期保健看護 I で使用したテキストおよび参考文献 医療情報科学研究所編集：病気がみえる Vol.10 産科、MEDIC MEDIA							
他科目との関連	周産期保健看護 I の講義で得た知識をもとに、看護技術を習得するための学習を行なう。本科目は保健師課程、助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。							
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。							

学習相談・助言体制	毎回の実習終了後に質問を受ける時間を取る。 実習時間外でも技術練習ができるよう実習室を開放し、指導が必要な場合に教員と連絡がとれるよう担当教員の指導可能時間と連絡先を提示しておく。
授業改善の特記事項	ALOHAノートを実習初日で確認し、学生の学習準備状況を把握する。 看護技術は担当教員または臨床指導者とマンツーマンで指導を行なう。
備考	なし



科目コード	33134	授業科目	周産期保健看護実習Ⅱ (Perinatal Health Nursing PracticumⅡ)			担当 教員	○西平朋子 賀数いづみ 井上松代 知念久美子 下中壽美 他	
実務経験：あり								
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業	実習	
選択必修	必修	時間数	90時間	分類	(助・看)	形態		
履修条件	前提科目	周産期保健看護演習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。						
授業概要	産婦・褥婦・新生児の臨床経過や心理社会的特徴を理解し、看護に必要な基本的知識・技術・態度を病産院での実習を通して学習する。NICUに入院している乳児の基本的な看護についても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産婦・褥婦・新生児とその家族の人格を尊重した関わりができる。</li> <li>2. 産婦・褥婦・新生児とその家族が親子関係・家族関係を形成するために必要な看護について説明できる。</li> <li>3. 正常から逸脱した新生児とその家族に必要な看護について説明できる。</li> <li>4. 産婦・褥婦の身体的・心理的・社会的特徴に基づいた看護計画の立案、実践、評価ができる。</li> <li>5. 新生児のアセスメントに基づいた看護計画の立案・実践・評価ができる。</li> <li>6. 母子保健医療チームにおける看護師の役割を説明することができる。</li> <li>7. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
10日間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥婦および新生児を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>2. 正常新生児の観察と計測、清潔の援助(沐浴など)、授乳の実施。</li> <li>3. 正常新生児の形態学的・生理的特徴と胎外生活適応過程について学ぶ。</li> <li>4. 褥婦・新生児の1か月健康診査(または母乳外来)を見学し、退院後の生活、身体的・心理・社会的変化を学ぶ。</li> <li>5. 低出生体重児・ハイリスク新生児の看護を学ぶ(NICU)。</li> <li>6. 分娩見学を行い、産婦や出生直後の新生児に必要な看護を学ぶ。</li> <li>7. 実習をとおして褥婦および新生児に関わる関連職種間の連携・調整を(関連法規・施策も含めて)考察する。</li> <li>8. 実践のふり返りをとおして自己の課題を明確にする。</li> </ol> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 母子1組を受け持ち、ケアを行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護計画を立案し、実践する。必要時追加・修正を行う。</li> <li>2) 媒体を用いて必要な保健指導を1つ行う。</li> <li>3) 院内で実施される集団保健指導を見学する。</li> </ol> </li> <li>3. 新生児室(2日間)</li> <li>4. NICU(1日間)</li> <li>5. 褥婦・新生児の1か月健診見学(1例)または母乳・育児支援外来を見学する。</li> <li>6. 毎日のカンファレンスで学生間の知識や学びを共有し理解を深める。</li> <li>7. 最終日は学内でカンファレンスを行い、学生間及び施設間で実習内容を共有し理解を深める。</li> </ol>						西平 賀数 井上 知念 下中 他	

テキスト	3年次実習の手引き 周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習で使用したテキスト
参考文献	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習で使用した参考文献
他科目との 関連	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健実習Ⅰ、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習と関連する。 本科目は助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の 方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・ 助言体制	基本技術について相談を受け、助言する。また、実習前に基本的看護技術（沐浴など）の練習が実施できるよう実習室の環境整備を行う。
授業改善の 特記事項	周産期保健看護演習で、集中的に基本的看護技術を確認し修得できるようにする。
備考	事前学習「ゆいノート」を完成させて実習初日に提出する。 既習の産褥期に必要な基本看護技術（バイタルサイン測定、退行性変化・進行性変化の観察技法等）および新生児の基本看護技術（沐浴・新生児のバイタルサイン測定、計測等）を十分に練習して実習に臨むこと

科目 コード	32126	授業 科目	小児保健看護 I (Child Health Nursing I)			担当 教員	○上原和代 永島すえみ 実務経験：あり		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業	講義		
選択必修	必修	時間数	15時間	分類	(保・助・看)	形態			
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	子どもの成長・発達と健康を社会や環境との視点から捉え、健康の維持増進、疾病の予防に関する方法、小児期における疫学的動向と対策を学習する。子どもの身体的心理的健康を支援するための基本的ヘルスケアを学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健看護において重要な概念と看護師の役割を説明できる。</li> <li>2. 国内外の小児保健医療の動向、法律、保健医療サービスを説明できる。</li> <li>3. 子どもの基本的生活習慣の獲得過程について説明できる。</li> <li>4. 子どもの健康な成長発達を促すために必要な日常生活の援助方法について説明できる。</li> <li>5. 子どもの健康障害やそのリスクを早期に発見するための評価方法について説明できる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	小児看護で用いられる概念と理論 小児看護とは、小児看護の歴史と意義 子どもの権利と看護 小児看護で用いられる理論				1. P12-33 事後テスト	永 島	講義		
第2回	小児看護と法律・施策 子どもと家族を取り巻く社会環境と諸統計 世界の子どもの健康 母子保健施策、小児に関する法律 小児看護の課題				1. P34-58 事前テスト  1. P59-76 事後レポート	〃			
第3回	子どもの成長・発達と看護 成長・発達の原則、成長・発達に影響する要因 発育の評価、発達の評価 予防接種				1. P78-79 P162-172 P120-125 P140 事前テスト	上 原			
第4回	乳幼児期の子どもの成長・発達と看護 形態的成長・発達の特徴、機能的発達の特徴 心理・社会的発達の特徴				1. P80-91 事前テスト	〃			
第5・6回	基本的生活習慣の獲得過程と援助 栄養と食習慣、トイレ・トレーニングと排泄習慣 睡眠と活動、生活リズム、清潔と衣生活、 遊びと学習、不慮の事故と安全対策				1. P100-120 P126-130 2. P58-72 P98-104 P124-133 事前テスト	〃			
第7回	学童期・思春期にある子どもの成長・発達と看護 学校保健、特別支援教育、第二次性徴、肥満と痩せ アイデンティティ、不登校、いじめ、喫煙と飲酒				1. P131-161 事前テスト	〃			

第8回	性意識の変化と性の逸脱行動 子どもの健康問題の早期発見とその対応 子どものヘルスアセスメント	2. P12-21 P210-225 P243-250 事前テスト	上原	
テキスト	1. 中野綾美編集. (2017). ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 2. 中野綾美編集. (2017). ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術			
参考文献	上田礼子. (2012). 生涯人間発達学 改訂第2版増補版、三輪書店 ユニセフ. (最新刊). 世界子供白書 厚生統計協会. (最新刊). 厚生指標、増刊、国民衛生の動向、 日本小児保健協会. (2009). DENVER II デンバー発達判定法、日本小児医事出版社 母子衛生研究会. (2008). 授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き 小野田千枝子監修. (2001). こどものフィジカルアセスメント、金原出版 奈良間美保他編. (最新刊). 系統看護学講座 小児看護学①、医学書院			
他科目との 関連	1年次後期開講の生涯人間発達論、生活援助・療養援助技術Ⅰ（子どもの日常生活に関する援助技術）の復習をしておくことと本科目が効果的に学習できる。小児看護の重要な概念、理論、法律・施策、および子どもの成長・発達と健康な生活への支援に活用できる知識を得、小児保健看護実習Ⅰの準備とする。 また、本科目は保健師課程、助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。			
成績評価 の方法	事前テスト20%、レポート10%、期末試験70%とする。			
学習相談・ 助言体制	授業翌日の16:00～17:00をオフィスアワーとし、各回の担当教員が対応する。			
授業改善の 特記事項	テキスト内容の補足資料を配付します。毎回の事前・事後テストにおいても不正行為があった場合は履修規定第10条に準じて対処します。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は原則として1コマあたり最低90分ずつの予習と復習が必要である。</li> <li>・毎回事前テスト、または事後レポートがある。学習範囲を確認して授業に臨むこと。</li> <li>・本科目は原則として成績不良者への学期末試験の再試験は行わない。</li> </ul>			

科目 コード	32127	授業 科目	小児保健看護Ⅱ (Child Health Nursing Ⅱ)			担当 教員	○上原和代 山本真充 非常勤		
							実務経験：あり		
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	子どもに特有の健康障害を中心に、病態生理や症状、診断、治療などをふまえ、病院、家庭、学校、地域において種々の健康レベルにある子どもへの看護支援に必要な基礎的知識や倫理的態度の重要性について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響と看護について説明できる。</li> <li>2. 子どもの権利を擁護し発達を支援する看護について説明できる。</li> <li>3. 健康障害のある子どもと家族に対し、病態生理を踏まえ疾病の経過別、症状別、治療処置別、及びさまざまな状況における看護の方法について説明できる。</li> <li>4. 健康障害のある子どもと家族に対し、入院、外来、在宅の場における看護の方法について説明できる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護				事前テスト 1. P. 173-188 1. P. 70-74	上 原	講 義		
第2回	外来における子どもと家族への看護 環境を調整する技術 在宅における子どもと家族への看護				事前テスト 1. P. 266-273 2. P. 28-55 1. P. 274-284	〃			
第3～7回	急性期にある子どもと家族への看護 検査や処置を受ける子どもと家族への看護				事前テスト 1. P. 189-215 1. P. 242-251	山 本			
第8～9回	慢性期にある子どもと家族への看護 成人への移行期にある健康障害を持つ子どもと 家族への看護				事前テスト 1. P. 216-226 1. P. 376-379	非常勤			
第10回	終末期にある子どもと家族への看護 痛みのある子どもと家族への看護				事前テスト 1. P. 227-241 1. P. 354-360	山 本			
第11回	心身障害のある子どもと家族への看護 先天的な健康問題のある子どもと家族への看護 ゲストスピーカー				事前テスト 1. P. 326-338 1. P. 339-353	上 原			
第12～13回	手術を受ける子どもと家族への看護				事前テスト 1. P. 252-265	非常勤			

第 14 回	子どもと援助関係を形成する技術 ゲストスピーカー	事後レポート 2. P12-33	上 原	
第 15 回	被虐待児と家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護	事前テスト 1. P295-299 1. P285-294	〃	
テキスト	1. ナーシング・グラフィカ小児看護学① 小児の発達と看護：中野綾美 他、メディカ出版 2. ナーシング・グラフィカ小児看護学② 小児看護技術：中野綾美 他、メディカ出版 3. ナースの小児科学改定第 6 版：佐地勉 他、中外医学社 核最新刊毎回、該当テキストを講義に持参すること。			
参考文献	系統看護学講座 小児看護学 1：奈良間美保 他、医学書院 小児看護技術：今野美紀・二宮啓子編、南江堂 生涯人間発達学 改訂第 2 版増補版：上田礼子、三輪書店、2012 その他、随時提示する。			
他科目との 関連	生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護実習Ⅰ、疾病論Ⅱなど、既習科目を統合し、健康障害のある子どもと家族への看護を学習し、3 年次後期に開講される小児保健看護実習Ⅱの準備とする。			
成績評価 の方法	事前テスト10%、レポート10%、学期末試験80%			
学習相談・ 助言体制	講義週の金曜日13時～14時をオフィスアワーとし、科目責任者および各回の担当教員が対応する。			
授業改善の 特記事項	期末試験の出題範囲を初回授業にて提示する。授業で取り扱わない疾患も含め、期末試験に出題されるので、自己学習をおすすめします。なお、毎回の事前テストにおいても不正行為があった場合は履修規定第10条に準じて対処します。			
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は原則として1コマあたり最低90分ずつの予習と復習が必要である。</li> <li>・毎回、事前テストまたは事後レポートがある。学習範囲を確認して授業に臨むこと。</li> <li>・本科目は原則として成績不良者への学期末試験の再試験は行わない。</li> </ul>			

科目コード	32128	授業科目	小児保健看護演習 (Child Health Nursing Seminar)			担当 教員	○山本真充 上原和代 他 実務経験：あり	
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業	演習	
選択必修	必修	時間数	30時間	分類	(助・看)	形態		
履修条件	前提科目	生活援助・療養援助技術実習 小児保健看護実習Ⅰ 小児保健看護Ⅱ						
	その他	なし						
授業概要	小児保健看護ⅠおよびⅡを踏まえ、子どもの健全な成長発達を促進するために必要な養育的ケアの原則と方法、育児支援などについて看護実践と関連付けて学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の実践に必要な小児看護の知識と技術（看護過程の展開、子どもと家族との関係構築、プレパレーション、養育的ケア、育児支援、療養生活指導、活動を制限された子どもへの遊び支援等）について模擬事例を通して習得する。</li> <li>2. 発達段階と健康障害、安全・安楽を考慮した小児の主な看護技術を習得する。</li> </ol>							
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	演習オリエンテーション 事前学習課題に関するワーク				下記について該当するテキストの範囲を復習する。 ・小児看護で出会うことの多い疾病の病態生理と主な検査、治療、看護 ・子どものヘルスアセスメント ・日常生活および診療に伴う援助技術 ・プレパレーション その他、詳細は事前に提示する。	山本 上原	演習	
第2～5回	看護過程演習（グループワーク） ・関連図の作成 ・看護計画の立案							
第6～9回	シミュレーション学習 ・子どもと家族とのコミュニケーション ・子どもの状態に合わせた情報収集 ・子どもの状態に合わせた観察 ・子どもの状態に合わせた対応							
第10～15回	小児看護技術演習・小児看護技術試験 ・バイタルサイン測定 ・吸入 ・口鼻腔吸引 ・点滴静脈内注射中の管理 ・小児の一次救命処置							
テキスト	生活援助・療養援助技術、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱで使用したテキストの他、資料を配布する。							
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 小児看護学①②：奈良間美保他、医学書院</li> <li>・小児看護技術：今野美紀、二宮啓子、南江堂</li> <li>・小児看護実習ガイド：筒井真優他、照林社</li> <li>・発達段階からみた小児看護過程：石黒彩子他、医学書院</li> </ul>							

他科目との 関連	小児保健看護実習Ⅱで必要となる基本的な看護技術および看護過程の展開方法について学習する。 また、本科目は助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価 の方法	演習への参加状況40%、事前学習状況10%、グループワーク10%、筆記試験10%、看護技術試験20%、学生間のピア評価10%とし総合的に評価する。 ただし筆記試験および看護技術試験の成績は6割以上を合格とし、不合格者は小児保健看護実習Ⅱに向けて個別指導を受ける。
学習相談・ 助言体制	演習期間中は、学生の相談に教員が対応できるよう体制を整える。教員は状況に応じロールモデル、ファシリテーターであるため積極的に活用すること。
授業改善の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児看護技術の自己学習教材としてオリジナルの動画を準備している。Web上、DVDで閲覧できるので積極的な活用を期待する。</li> <li>・看護過程演習とシミュレーション学習のつながりをもたせた演習内容とした。</li> </ul>
備 考	本科目は小児保健看護実習Ⅱの前提科目である。 事前に提示する自己学習を含め主体的に演習に臨むことが必要である。



科目コード	32133	授業科目	小児保健看護実習 I (Child Health Nursing Practicum I)			担当教員	○上原和代 他 実務経験：あり		
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業形態	実習		
選択必修	必修	時間数	45時間	分類	(保・助・看)				
履修条件	前提科目	小児保健看護 I							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	健康な子どもの成長発達の特徴とそのアセスメント方法や支援方法、また日常ありふれた健康問題をもった子どもへの支援方法について、主に保育所での実習をとおして学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実習生として責任を自覚した行動ができる。</li> <li>2. 子どもの人権を理解し尊重した行動ができる。</li> <li>3. 乳幼児と積極的に関わることができる。</li> <li>4. 乳幼児の成長・発達に応じて日常生活の支援ができる。</li> <li>5. 乳幼児への支援を通して成長・発達をアセスメントできる。</li> <li>6. 乳幼児への安全管理、安全教育について説明し、考察できる。</li> <li>7. 乳幼児期の子どもの保育・教育について説明できる。</li> <li>8. 実践したことを振り返り、自己の課題を見出すことができる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
5 日間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習内容 主に地域の保育所や認定こども園にて乳幼児への日常生活の支援を通して、その成長・発達の状況を既習の標準的な指標や理論など、根拠に基づき分析する。また、地域で展開される子育て支援活動についても学ぶ。</li> <li>2. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習期間：5 日間（月曜日～金曜日）、祝日除く</li> <li>2) 実習時間：8：30～16：30</li> <li>3) 実習施設：那覇市内の保育所・保育園・認定こども園</li> <li>4) 実習の進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習開始までに学生は事前に提示された課題(備考参照)にとりくむ。</li> <li>・実習初日、学生は施設の指導者から施設オリエンテーションを受ける。</li> <li>・学生は配置されたクラスの日課に沿って活動する中で、実習目標が達成できるよう、実習に取り組む。</li> <li>・学生は日々のカンファレンス、施設および学内報告会を運営し、互いの実習内容を共有することで理解を深める。</li> <li>・学生は実践の振り返りを通して自己の学習課題を明確にする。</li> <li>・学生は所定の実習記録を完成させ、期日までに提出する。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>							上原 他	
テキスト	実習の手引き								
参考文献	生涯人間発達論、生活援助・療養援助技術 I、小児保健看護 I のテキストおよび講義資料、その他随時紹介								
他科目との関連	生涯人間発達論、生活援助・療養援助技術 I、小児保健看護 I にて既習の知識や技術を実践の場で活用する。 本科目は保健師課程、助産師課程、看護師課程の読み重ね科目である。								

成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に基づく評価（90%）、担当教員および科目責任者による実習への取り組みの評価（10%）の合計とする。実習の評価には全体オリエンテーションの参加状況も含まれる。連絡のない遅刻、欠席、早退、実習記録の未提出、その他、倫理的に問題があると思われる状況については大幅な減点となる場合がある。
学習相談・助言体制	教員は日々のカンファレンスに参加し、学生の学びや理解が深まるよう相談・助言を行う。実際の子どもの世話やコミュニケーションスキルについては実習指導者から直接学ぶ。
授業改善の特記事項	同時期に4～5施設に分かれて実習する。施設毎に特色ある保育・教育活動が展開されており、地域で果たす機能が異なる施設もあるため、最終日に学生間の学びを共有できるよう学内報告会を行う。
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に臨むにあたり、既習の子どもの発達段階の特徴について復習しておくこと。</li> <li>・実習グループごとに既習の小児看護技術（抱っこ、更衣、オムツ交換、授乳、身体計測）について指定の期間に練習すること。</li> <li>・子どもにわかりやすい布製の名札を作成し、上着またはエプロンに付け外しできるようにしておくこと（安全ピンは使用不可）。</li> <li>・実習 1 か月以内のぎょう虫検査結果の提出が必要な施設もあるため、該当する学生は教員の指定する期日までに検査結果を大学の健康管理担当者（保健室）へ提出すること（自費）。</li> </ul>

科目 コード	32134	授業 科目	小児保健看護実習Ⅱ (Child Health Nursing Practicum Ⅱ)			担当 教員	○上原和代 山本真充 他	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	90時間					
履修 条件	前提科目	小児保健看護演習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	健康障害をもつ子どもとその家族の家庭的および社会的環境を理解し、子どもの身体的・精神的な健康レベルや、QOLを高める看護に必要な基本的態度を医療施設の実習を通して学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害のある子どもとその家族の権利を尊重した関わりができる。</li> <li>臨床現場で起こる出来事や自己の実践を振り返ることで倫理的感受性を高め、子どもと家族の権利の擁護者として必要な行動を説明できる。</li> <li>健康障害のある子どもの症状と発達に応じたコミュニケーション技術を用い、子どもとその家族に対し、援助的関係を築くことができる。</li> <li>健康障害のある子どもの身体的、心理的、社会的、成長・発達の各側面について情報収集できる。</li> <li>収集した情報を整理し、分析・解釈・統合し、注目点を抽出して看護目標を設定することができる。</li> <li>成長・発達と健康障害の程度を考慮し、安全・安楽と自立に留意した看護を計画・実施・評価できる。</li> <li>子どもと家族に関係する保健・医療・福祉・教育等の専門職者との連携を説明できる。</li> <li>実践したことを振り返り、自己の課題を見出し説明できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
10日間	<ol style="list-style-type: none"> <li>実習内容 原則として学生1名で入院中の子どもを受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>実習方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習期間：2週間（月曜日～金曜日）</li> <li>実習時間：8：00～16：00（病棟の勤務時間に応じて調整）</li> <li>実習施設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 那覇市立病院、沖縄南部療育医療センター</li> <li>実習の進め方 <ul style="list-style-type: none"> <li>学生は実習開始までに事前に提示された課題に取り組む。</li> <li>受け持ちの子どもと家族に合わせてコミュニケーションとり、ケア提供に必要な情報を問診、フィジカルアセスメントの技法を用いて収集する。</li> <li>受け持ちの子どもの健康問題など身体的側面に加え、心理、社会、成長・発達の各側面について、子どもの健康障害に伴う子どもと家族への影響をアセスメントする。</li> <li>アセスメントをもとに看護上の注目点を抽出する。注目点に沿って看護目標を設定し、看護計画を立案、実践する。</li> <li>実践した看護計画の結果を日々評価する。必要に応じて看護計画を追加、修正する。</li> <li>実習期間中、子どもと家族の権利に関して気になった場面について所定の様式に記録する。場面に含まれる倫理的な葛藤に気づき自己の実践に生かすことを目的に倫理カンファレンスを行う。</li> <li>実習を通して子どもと家族に関わる専門職者間の連携を観察、記述する。</li> <li>学生は自身の看護実践を振り返り自己の課題を見つけ改善策を提案する。</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>						上 原 山 本 他	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生は所定の実習記録を完成させ、期日までに提出する。</li> <li>・その他、カンファレンス、報告会等を適時に開催する。</li> </ul>
テキスト	実習の手引き
参考文献	小児保健看護Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト、講義資料、その他随時紹介。
他科目との関連	生涯人間発達論、生活援助・療養生活援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメント、疾病論Ⅱ、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱ、小児保健看護実習Ⅰ、小児保健看護演習など既習の知識および技術を活用する。
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に基づく評価（90%）、担当教員および科目責任者による実習への取り組みの評価（10%）の合計とする。全体オリエンテーションの参加状況も含まれる。連絡のない遅刻、欠席、早退、実習記録の未提出、その他、倫理的に問題があると思われる状況については大幅な減点となる場合がある。小児保健看護演習（ <u>前提科目</u> ）の単位が認められない場合、本実習は履修しなかったものとする。
学習相談・助言体制	原則として実習グループ毎に実習指導教員を配置し指導する。実習上の疑問点や困ったことについては施設の実習指導者、教員へ積極的に相談し疑問を解決すること。
授業改善の特記事項	実習中に実施が予想される子どもへの看護技術については小児保健看護演習で技術指導を行う。また、インシデント防止策として実習の手引きを用い、実習期間中に学生の実施が許可される技術項目とその範囲について実習グループ毎に確認する。
備考	実習に臨むにあたり、子どもの発達段階の特徴、実習で出会うことの多い疾患の病態・治療、看護について実習の手引きに示した事前学習範囲に沿って学習すること。また、既習の子どものヘルスアセスメントの技術および基礎看護技術を十分復習しておくこと。

科目コード	34124	授業科目	成人保健看護 I (Adult Health Nursing I)			担当 教員	○山本敬子、神里みどり 実務経験：あり		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必修	時間数	15時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	成人期にある人の生活と生活環境を理解し、健康の保持・増進・疾病予防のための保健管理および保健活動における看護の役割と機能、および成人期における健康状態の疫学的動向と対策を学習する。また、健康レベルに応じた QOL を維持・高めるための看護を学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の特徴について述べるができる。</li> <li>2. 成人期にある対象の生活と生活習慣に関連する健康問題について述べるができる。</li> <li>3. 成人期にある対象の疫学的動向を踏まえ、ヘルスプロモーションと健康教育について述べるができる。</li> <li>4. 成人期にある対象を対象とした看護に必要な中範囲理論について述べるができる。</li> <li>5. 成人期にある対象の健康レベルに応じた看護過程について述べるができる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	成人看護学における対象の理解						山 本	講 義	
第2回	健康レベルと看護の特徴						〃		
第3回	成人期にある人、家族への看護援助に必要な中範囲理論 1						〃		
第4回	成人期にある人、家族への看護援助に必要な中範囲理論 2						〃		
第5回	ヘルスプロモーションと健康教育 1						神 里		
第6回	ヘルスプロモーションと健康教育 2						〃		
第7回	成人期にある人、家族への看護援助に必要な中範囲理論 3						山 本		
第8回	成人期の特徴を捉えた看護過程 総括						〃		
テキスト	成人看護学概論，南江堂，林直子他， 看護診断ハンドブック(原著 14 版)，リンダ J. カルペニート＝モイエ，医学書院 看護成果分類(NOC) 成果測定のための指標・測定尺度(原著 5 版)，ELSEVIR								
参考文献	看護介入分類(原著 6 版)，Gloria M. Butcher 他，南江堂 国民衛生の動向 Vol. 62 No. 9 2018/2019 財団法人 厚生労働統計協会 看護理論，南江堂，筒井真優美								
他科目との 関連	生涯人間発達論 ※本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。								
成績評価 の方法	最終筆記試験：80%、課題レポート：20%								
学習相談・ 助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。必要時個人またはグループ面接を行う。								
授業改善の 特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。 学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。								
備 考									

科目 コード	34125	授業 科目	成人保健看護Ⅱ (Adult Health NursingⅡ)			担当 教員	○山本敬子 赤嶺伊都子 宮城裕子	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履 修 条 件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	成人期にある人の健康障害を機能障害別に病態生理・治療を理解し、急性期から回復期、慢性期、終末期に応じた看護をリハビリテーション、在宅ケアを含めて学習する。対象の権利を擁護し、自己管理に向けた支援と看護の役割を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習授業を想起し、各機能障害の病態生理、症状、治療について説明できる。</li> <li>2. 各機能障害、健康レベルに応じた対象の特徴について述べるができる。</li> <li>3. 各機能障害、健康レベルに応じた対象の看護過程について述べるができる。</li> <li>4. 成人期にある対象の看護に活用できる看護理論を説明できる。</li> <li>5. 慢性疾患をもつ対象のセルフケア支援と看護の役割を説明できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	成人期にある対象の理解と看護過程				以下、テキスト南 江堂 第V章 V-1 V-2 V-4 V-3 V-7 V-5 V-6	山 本	講 義	
第2回	成人期にある対象の理解と看護過程					”		
第3回	呼吸機能障害をもつ対象の理解と看護					宮 城		
第4回	呼吸機能障害をもつ対象の理解と看護					”		
第5回	循環機能障害をもつ対象の理解と看護					赤 嶺		
第6回	循環機能障害をもつ対象の理解と看護					”		
第7回	循環機能障害をもつ対象の理解と看護					”		
第8回	代謝機能障害をもつ対象の理解と看護					宮 城		
第9回	代謝機能障害をもつ対象の理解と看護					”		
第10回	栄養摂取・消化機能障害をもつ対象の理解と看護					赤 嶺		
第11回	栄養摂取・消化機能障害をもつ対象の理解と看護					”		
第12回	脳・神経機能障害をもつ対象の理解と看護					宮 城		
第13回	脳・神経機能障害をもつ対象の理解と看護					”		
第14回	腎機能障害をもつ対象の理解と看護					宮 城		
第15回	生体防御機能障害をもつ対象の理解と看護 総括					赤 嶺 山 本		
テキスト	成人看護学 慢性期看護, 南江堂, 鈴木久美他 看護診断ハンドブック(原著14版), リンダJ.カルペニート=モイエ, 医学書院 看護成果分類(NOC) 成果測定のための指標・測定尺度(原著5版), ELSEVIR							
参考文献	看護介入分類(原著6版), GloriaM. Butcher 他, 南江堂 病気がみえる Voi.1-4, 6-8, メディックメディア, 疾病と治療Ⅰ-Ⅲ, 南江堂 エビデンスに基づく看護過程実践Q& Aー 関連図で導く看護診断とケアプラン,中央法規出版 看護理論, 南江堂, 筒井真優美							

他科目との関連	成人保健看護Ⅰ、栄養と代謝、臨床薬理、病態生理、リハビリテーション論、疾病論Ⅰ、臨床心理、ヘルスアセスメント、ストレスマネジメントと健康教育
成績評価の方法	筆記試験80%、課題レポート20%
学習相談・助言体制	終了時に理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめる。次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。
授業改善の特記事項	学生は既習授業（人体の構造と機能、臨床薬理、病態生理、疾病論Ⅰ・Ⅱ）の復習及び次回使用のテキスト箇所を読み、準備して授業に臨む。テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。
備考	学生は学習時間を確保できるように、アルバイトやサークル等の活動時間を調整する。

科目コード	34126	授業科目	成人保健看護演習 (Adult Health Nursing Seminar)			担当 教員	○赤嶺伊都子 謝花小百合 宮城裕子 山本敬子 他		
							実務経験：あり		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演習		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	成人保健看護実習Ⅰ 生活援助・療養援助技術実習 成人保健看護Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要	健康障害を持つ成人期にある人の病態生理・治療を理解し、身体的、心理・社会的情報をアセスメントし、看護実践に必要な問題解決の基礎的能力を習得する。健康障害を持つ成人期にある人の身体的、心理社会的特徴を理解し、セルフケア支援に必要なコミュニケーション技術、指導技術を学習する。また、実習の対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度を養う。								
到達目標	1. 模擬事例を通して、健康障害を持つ成人期にある対象の病態生理・治療を理解し、看護実践に必要な問題解決の基礎的能力（看護過程の展開）を習得できる。 2. 社会復帰・在宅ケア・セルフケア支援に必要な臨床技術・指導技術を習得できる。 3. 対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度を習得できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回～ 第8回	1. 模擬事例を用いての看護過程演習 1) 健康障害を持つ成人期にある人の看護過程演習 2) グループワーク				・看護過程事前 課題 ・グループ・個人 課題レポート	赤 嶺 謝 花 宮 城 山 本	演 習		
第9回～ 第13回	2. 臨床看護技術演習 1) 呼吸ケアの看護技術 口腔・鼻腔吸引、酸素療法  3. セルフケア支援に必要な指導技術演習 1) ケーススタディ ①パンフレット作成 ②セルフケア支援（食事療法、運動療法、服薬指導） 2) 自己血糖測定の指導				・技術演習事前 課題 ・演習ノート ・配布資料  ・配布資料 ・配布資料	謝 花 宮 城  宮 城 赤 嶺			
第14・15回	4. 実技評価・個別指導					赤 嶺 謝 花 宮 城			
テキスト	看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 成人保健看護演習ノート（配布資料）、								
参考文献	成人看護学 慢性期看護 南江堂、 看護成果分類(NOC) 成果測定のための指標・測定尺度（原著第6版）, ELSEVIER 看護介入分類(NIC) (原書第6版) GloriaM. Bulechek 他, 南江堂、 ヘルスアセスメント 南江堂								
他科目との 関連	人間関係論、疾病論Ⅰ、臨床心理、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人保健看護Ⅰ・Ⅱ								
成績評価 の方法	技術評価30%、レポート65%(技術演習25%、看護過程演習40%)、態度(演習への参加度)5%								



学習相談・助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事等を意見交換等で理解を図る。
授業改善の特記事項	演習ノート、演習内容を補充・説明する資料を配布する。 学生は次回使用の演習ノート、資料内容を読み、準備して授業に臨むこと。
備考	事前課題（看護過程、技術演習）を指定された日時までに提出すること。 演習後のレポートおよびグループ・個人課題は指定された日時までに提出すること。 自己学習を含め主体的に演習に望むことが必要である。

科目 コード	34135	授業 科目	成人保健看護実習 I (Adult Health Nursing Practicum I)			担当 教員	○赤嶺伊都子 謝花小百合 宮城裕子 山本敬子 他	
							実務経験：あり	
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修 条件	前提科目	成人保健看護 I						
	その他	各抗体検査(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎)で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	成人期にある人の生活環境と社会的役割を理解し、健康の保持・増進、疾病予防・早期発見のための保健行動、受療行動、セルフケアにおける看護の役割・機能を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。</li> <li>2. 成人期にある対象の生活と生活習慣に関連する健康問題について説明できる。</li> <li>3. 成人期にある対象の生活と生活習慣に関連する健康問題の要因について説明できる。</li> <li>4. 成人期にある対象のヘルスプロモーションと疾病予防、早期発見・治療、重症化予防のための保健行動、受療行動、セルフケアの実際について説明できる。</li> <li>5. 成人期にある対象のヘルスプロモーションと疾病予防、早期発見・治療、重症化予防のための支援活動の実際について説明できる。</li> <li>6. 保健医療機関の機能と役割について説明できる。</li> <li>7. 保健医療福祉等の関係職種間の連携・調整の実際について説明できる。</li> <li>8. 学生として倫理的態度および責任ある行動がとれる。</li> <li>9. 主体的に学びを深め、自己の学習課題を述べることができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
1 日目～ 4 日目	<p>実習内容：総合保健機関または総合病院外来における看護 実習の進め方：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>1)施設別・グループ別オリエンテーションを大学内で実習指導教員が行う。</li> <li>2)各実習施設の初日に実習担当看護師(外来師長または実習施設の看護職)が行う。</li> </ol> </li> <li>2. 総合保健機関または病院外来における実習(4 日間) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総合保健機関の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一人の利用者の健康診断等に同伴する。</li> <li>(2) 利用者とのコミュニケーションや利用者の反応、表情、言動の観察を行い、健康上のニーズをアセスメントする。</li> <li>(3) 健康の保持増進・疾病予防のための健康教育および支援活動の実際について学習する。</li> </ol> </li> <li>2) 病院外来の場合 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 成人期にある患者を 1 例受け持ち、受付から終了まで患者に同伴し、対象とのコミュニケーションや反応、表情、言動の観察を行い、対象との関わりや診療場面の見学を通して健康上の問題やニーズをアセスメントする。また、保健行動、セルフケア、受療行動などについて学び、患者に必要な看護援助を学ぶ。</li> <li>(2) 禁煙外来や生活習慣病外来など、健康教育および支援活動が行われている場の見学を通して必要な看護援助について学ぶ。</li> <li>(3) 利用者に対する医師、看護師、その他の病院職員のサービス・支援について学ぶ。</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3. 実習報告会(最終日は大学内で、実習で学習したことについて報告会を行い、実習の成果を共有する)</li> </ol>						赤 嶺 謝 花 宮 城 山 本  他	
テキスト	実習の手引き 2 年次後期 成人保健看護実習 I							

参考文献	成人看護学概論 南江堂、ヘルスアセスメント 南江堂
他科目との関連	生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、成人保健看護 I、病態生理、身体活動論 本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・助言体制	毎日の実習カンファレンスを充実し、実習で学習した内容を深める。記録、レポート等の記録物について指導、助言をする。学生の実習に関する相談に対応する。
授業改善の特記事項	実習内容を補充・説明する資料を配布する。
備考	実習オリエンテーションで配布する資料や実習の手引きを読んで実習に参加する。

科目コード	34136	授業科目	成人保健看護実習Ⅱ (Adult Health Nursing Practicum Ⅱ)			担当 教員	○赤嶺伊都子 謝花小百合 宮城裕子 山本敬子 他	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必修	時間数	90時間					
履修条件	前提科目	成人保健看護演習						
	その他	各抗体検査(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎)で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	健康障害をもち医療機関で入院加療の必要な成人の身体的・心理社会的側面を理解し、社会復帰または在宅ケアを視野に、対象者との相互作用を通して健康回復およびセルフケアへの看護が実践できる基礎的知識、技術および倫理的態度を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の発達段階の特徴を踏まえて、健康障害が対象に及ぼす影響について、身体的、心理的・社会的・霊的側面から情報収集できる。</li> <li>2. 対象との相互作用を通して、専門的援助関係を築くことができる。</li> <li>3. 対象の健康障害の病態生理および対象に行われている治療について説明できる。</li> <li>4. 対象の発達段階の特徴を踏まえて、健康障害が対象に及ぼす影響について、身体的、心理的・社会的・霊的側面からアセスメントできる。</li> <li>5. 対象の健康問題・課題を明らかにし、必要な看護援助を計画できる。</li> <li>6. 計画した看護援助を、対象の状況に合わせて実施し、評価できる。</li> <li>7. 在宅療養・社会復帰を視野に必要な看護援助を行うことができる。</li> <li>8. 対象の療養生活を支援するために保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能について説明できる。</li> <li>9. 対象者を取り巻く環境調整の必要性と、他職種との連携について説明できる。</li> <li>10. 学生として倫理的態度および責任ある行動がとれる。</li> <li>11. 主体的に学びを深め、自己の学習課題を明確にすることができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
1週目 ～ 2週目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の健康障害をもつ患者を受け持ち、看護過程を展開する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康障害の病態像と対象の日常生活に及ぼす影響、変化をアセスメントする。</li> <li>2) 対象が健康障害をどのように捉えているのかをアセスメントする。</li> <li>3) 治療法に伴う生体反応を観察・測定し、対象の身体・心理・社会・霊的側面からアセスメントし、看護上の問題を明らかにして、必要な看護援助について計画できる。</li> <li>4) 計画に基づいて、患者の安全、安楽に配慮して実施し、評価できる。</li> <li>5) 対象者と目標を共有して、健康回復およびセルフケアに必要な支援を行うことができる。</li> <li>6) 生活環境や職場環境、経済的問題について傾聴し、対象が意思決定するための支援を行うことができる。</li> </ol> </li> <li>2. 1週目の木曜日および金曜日に病棟指導者を交えて中間カンファレンスで事例検討会を行い、再アセスメント、看護計画の修正を行う。</li> <li>3. 実習最終日は各病棟で実習指導者を交えて最終カンファレンスを行う。</li> </ol>						赤 嶺 謝 花 宮 城 山 本 他	
テキスト	実習のてびき							

参考文献	成人看護学 慢性期看護 南江堂、 看護診断ハンドブック、リンダ J. カルペニート=モイユ、医学書院 看護成果分類(NOC) 成果測定のための指標・測定尺度(原著第5版), ELSEVIER 看護介入分類(NIC)(原書第6版) GloriaM. Bulechek 他, 南江堂、 ヘルスアセスメント 南江堂 成人看護実習ガイドⅡ、照林社、
他科目との 関連	看護活動を実施できる基礎的知識、技術および倫理的態度を学習するために、疾病論Ⅰ・ヘルスアセスメント・生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助技術実習・成人保健看護Ⅰ・成人保健看護Ⅱ・成人保健看護演習・成人保健看護実習Ⅰ等の既習科目や実習の内容を統合している。
成績評価 の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・ 助言体制	実習では毎日のカンファレンスでグループごとに振り返りを行い、各自の学んだことについてグループ内で共有し、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等をグループ全員で考え、翌日の実習展開をスムーズに行うように指導助言していく。
授業改善の 特記事項	実習指導上の問題は、早期に現場の師長や指導者と話し合い、双方が協力体制を構築し取り組む。
備考	実習に望むにあたり、成人期の発達段階の特徴、実習病棟に多い疾患の病態・治療について自己学習し、また、基礎看護技術を十分練習しておくこと。

科目 コード	35125	授業 科目	老年保健看護 I (Geriatric Nursing I)			担当 教員	○大湾明美 田場由紀	
							実務経験：あり	
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	15時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	高齢者の健康（身体的・精神的・社会的）と生活、これらに影響を及ぼす社会システムおよび老年期における疫学的動向と対策を学習し、健康長寿（サクセスフルエイジング）を支援するための看護の役割を学習する。							
到達目標	1. 高齢者の健康と地域文化を含めた生活について、身体的、心理的、社会的特徴を述べる ことができる 2. 高齢者を個別的に捉える視点として、ストレングス、生活ニーズ、および ICF モデルの 説明ができる 3. 高齢者の生活を取り巻く社会システムや環境が、高齢者の生活や健康に与える影響を述 べる ことができる 4. QOL の概念について説明することができる 5. サクセスフルエイジングを支援するための看護の役割について述べる ことができる							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	1. 老年保健看護を理解するための基盤（導入） 1) 老年保健看護の重要な概念、理論、モデル 2) 老年保健看護の歴史				*毎回事前課題 レポートを出す P103-138	大 湾  田 場	講 義  〃	
第2回	2. 高齢者の見方と捉え方 1) 高齢者の個別性と多様性 2) 統一体としての捉え方							
第3回	3. 高齢者の健康と生活 1) 高齢者疑似体験				P66-71 P84-101 P37-50	〃 〃	演 習 講 義	
第4回	2) 高齢者の健康と生活の捉え方 3) 高齢者のサクセスフルエイジングと生活							
第5回	4. 高齢者の健康と生活に影響を及ぼす社会システム 1) 老年期における疫学的動向と社会保障の変遷 2) 高齢者の保健・医療・福祉・介護対策				〃	〃		
第6回	5. 高齢者を取り巻く環境 1) 高齢者を取り巻く環境の捉え方 2) 生かし生かされる環境づくり							
第7回	6. サクセスフルエイジングを支援するための老年 保健看護の役割 1) QOL の概念とQOLを高めるための社会的な取り組み				別資料 P325-330	田 場 大 湾	〃 〃	
第8回	2) サクセスフルエイジングを支援するための老年 保健看護の役割							
テキスト	老年看護学概論，南江堂，2011.							
参考文献	老年看護学技術，南江堂，2011.							

他科目との関連	生涯人間発達論、心理学などの既習科目の内容を踏襲しつつ、高齢者看護の対象論、目的論を具体的に示し、老年保健看護科目への導入とする。 本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	ミニテスト10%、課題レポート10%、試験80%
学習相談・助言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。レポートは次回の授業までに提出を求め、講義内容についての理解を広げ深める方法の体験を促す。
授業改善の特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を毎回作成、配布する。 講義内容と関連する国試問題を毎回提示し、事後課題とする。
備考	毎回テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。

科目コード	35126	授業科目	老年保健看護Ⅱ (Geriatric NursingⅡ)			担当教員	○田場由紀 砂川ゆかり 大湾明美 光来出由利子	
							実務経験：あり	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	講義	
選択必修	必修	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	高齢者の健康障害に対する基本的な知識を体系的に学習し、施設や在宅等多様な場で、健康レベルに応じたケアを必要とする高齢者の尊厳を支える看護について学習する							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者特徴的な疾患（老年症候群、認知症）について述べるができる</li> <li>2. 高齢者の健康障害によってもたらされる生活機能障害について述べるができる</li> <li>3. 高齢者ケアの考え方（尊厳、自己決定、QOL、エンパワメント）について述べるができる</li> <li>4. 多様な高齢者ケアの場におけるケアの特性を述べるができる</li> <li>5. 高齢者の尊厳を支える看護の役割と展望について述べるができる</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	1. 高齢者の健康障害と生活					*毎回事前課題レポートを出す ①P220-226 ①P189-229 ②P31-41 ②P1-30 別刷 ①P306-313 ①P288-305 ①P81-87 ①P320-322 ①P253-278 ①P260-269 ①P51-64 ①P231-237 ①P325-344 ①P306-312	田 場 " 砂 川 " 大 湾 " 光来出 田 場 " " 光来出 田 場 " " 砂 川 " 田 場 大 湾	講 義
第2回	1) 高齢者の健康障害をもたらす主要疾患							
第3回	2) 老年症候群と生活機能障害							
第4回	3) 高齢者の慢性疾患とリスク							
第5回	4) 高齢者のQOLと総合機能評価							
第6回	5) 高齢者のニーズと地域包括ケアシステム							
第7回	2. 高齢者の健康レベルと多様な場におけるケア							
第8回	1) 高齢者の健康生活とケアの特性							
第9回	2) 高齢者の診断・治療とケアの特性							
第10回	3) 高齢者の療養生活とケアの特性							
第11回	3. 高齢者のもつ社会資源を生かしたケア							
第12回	1) 社会資源としての高齢者を生かすケア							
第13回	2) 介護する家族を生かすケア							
第14回	3) 家族以外のインフォーマルサポートを生かすケア							
第15回	4. 高齢者の尊厳を支えるための看護							
第16回	1) 基本的人権の尊重、権利擁護、倫理に基づくケア							
第17回	2) 自己決定を支えるケア							
第18回	5. 高齢者の尊厳を支える看護の役割と展望							
第19回	1) 当事者主体の高齢者ケア							
第20回	2) 看護の役割拡大と協働連携							
テキスト	①老年看護学概論, 南江堂, 2011. ②老年看護学技術, 南江堂, 2011.							
参考文献	ケアマネジャー実践ガイド 医学書院 1997							



他科目との 関連	老年保健看護 I で示す高齢者看護の対象論、目的論、方法論を前提とし、人体の構造と機能、疾病論 I・II、人間関係論等の既習科目を統合し、高齢者看護の実際を学ぶ。
成績評価の 方法	ミニテスト10%、課題レポート10%、試験80%
学習相談・ 助言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。レポートは次回の授業までに提出を求め、講義内容についての理解を広げ深める方法の体験を促す。
授業改善の 特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を毎回作成、配布する。 講義内容と関連する国試問題を毎回提示し、事後課題とする。
備考	毎回テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。

科目 コード	35127	授業 科目	老年保健看護演習 (Geriatric Nursing Seminar)			担当 教員	○田場由紀 砂川ゆかり 光来出由利子	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	老年保健看護実習Ⅰ 生活援助・療養援助技術実習 老年保健看護Ⅱ						
	その他	なし						
授業概要	高齢者の健康障害に伴う生活機能のアセスメントとケアの技法を学習し、根拠に基づいた看護実践上の問題解決能力を習得する。							
到達目標	1. 加齢や認知症に伴うコミュニケーション障害への支援方法を習得する 2. 客観的指標を用いた高齢者総合機能評価の技法を習得する 3. 高齢者の全体像（身体状況、心理状況、社会状況および環境）を把握し、生活ニーズを導くためのアセスメント技法を習得する 4. 高齢者及びその家族への看護実践および看護研究から導かれたケア技法を学び、問題解決能力を習得する。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回 第2回 第3・4回 第5～8回 第9・10回 第11回 第12回 第13・14回 第15回	1. 援助関係を形成するプロセスと援助者の態度 2. 援助関係を形成するためのコミュニケーション技法 3. 高齢者のアセスメント 1) 生活機能のアセスメント 2) 総合機能評価 4. 高齢者のストレングスを活かした計画立案の技法 1) スtrenグスを活かした計画立案 2) ICFモデルを活用した計画立案 5. 認知症高齢者ケアの技法 1) 中核症状に対するケア技法 2) 周辺症状に対するケア技法 6. 家族ケアの技法 7. 協働連携のケア技法（シミュレーション演習） 8. 高齢者のケアマネジメント 1) 生活ニーズとケアマネジメント 2) 看護実践および看護研究から導かれたケア技法				*事前に読むこと ①P232-252 ②P106-116  ②P2-15 別刷  ②P128-308  ②P32-125 ②P18-30  ①P253-278  ①P288-305	田 場 " 砂 川  田 場 光来出  砂 川 " " 田 場 " "	演 習          	
テキスト	①老年看護学概論，南江堂，2011．②老年看護学技術，南江堂，2011．							
参考文献	ケアマネジャー実践ガイド 医学書院 1997							
他科目との 関連	ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術などの広域・基盤看護科目の内容を老年保健看護Ⅰ、老年保健看護Ⅱの既習科目と統合し、実際のケアに生かす方法を学ぶ。							
成績評価の 方法	授業への参加状況10%、演習課題50%、課題レポート40%							
学習相談・助 言体制	毎回の授業ごとに、関連のある課題レポートを課す。課題レポートの内容は患者体験を促すものとし、尊厳を支える看護について多様な場面から検討する。							
授業改善の 特記事項	講義内容を伝達するための講義資料を毎回作成、配布する。							
備 考	毎回テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。							

科目コード	35134	授業科目	老年保健看護実習 I (Geriatric Nursing Practicum I)			担当 教員	○田場由紀 砂川ゆかり 光来出由利子 他	
		実務経験：あり						
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保・看)	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修条件	前提科目	老年保健看護 I						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	高齢者の健康状態と日常生活を理解した上で、サクセスフルエイジングを生きる高齢者から老年期の発達課題を乗り越えることで得た強み（ストレンクス）を学び、その強みを高齢者の看護実践に活かす能力を習得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象に関心を持ち、個人として尊重した態度を取ることができる。</li> <li>2. 観察とコミュニケーション技術を活用して、対象の生活史や加齢に伴う変化、人々との関わりから対象の健康と地域文化を含めた生活について、身体的、心理的、社会的状況を記述することができる。</li> <li>3. 対象の発達課題とストレンクスについて、個別的に導くことができる。</li> <li>4. 対象のストレンクスを生かしたサクセスフルエイジングの支援のためのアセスメントができる。</li> <li>5. 一連の看護実践をふり返り、自己の課題を見だし、今後の学習課題を述べることができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
5日間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象とのかかわりを通して、対象の生活史や日常生活、加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化を把握する。</li> <li>2) 対象の暮らす地域について学び、対象の日常生活への理解を深める。</li> <li>3) 対象の感じている健康上の問題や思いを把握する。</li> <li>4) 対象がセンターを利用する経緯や動機を把握し、対象の健康状態への理解を深める。</li> <li>5) 対象の行っているセルフケアについて生活史や健康状態の影響と関連させ理解する。</li> <li>6) 対象の発達課題を把握する。</li> <li>7) 対象の家族、友人、知人、近隣、仲間との交流について把握する。</li> <li>8) センターの活動が対象の健康状態や日常生活に及ぼしている影響を見いだす。</li> <li>9) 対象の身体的・精神的・社会的特徴から、ストレンクスを見いだす。</li> <li>10) 対象のセルフケアと生きがいについての語りから、サクセスフルエイジングとの関係を述べるができる。</li> <li>11) 対象のサクセスフルエイジングへのニーズを把握する。</li> <li>12) 対象のストレンクスをサクセスフルエイジングに生かす提案ができる。</li> <li>13) 実習で学習したことを共有・統合し、今後の学習への課題を見いだす。</li> </ol> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) センターの活動に参加し、対象と積極的にかかわりをもつ。</li> <li>2) センターで紹介された対象の1事例を担当し、センター利用時以外の自宅での生活や他の活動にも同行する。</li> <li>3) センター以外の場に出向く時には、目的や方法等を計画した上で、教員や実習指導者と調整した上で行う。</li> </ol>						田 場 砂 川 光来出 他	
テキスト	老年看護学概論，南江堂，2011.							
参考文献	別途指示する							

他科目との関連	<p>老年保健看護Ⅰの既習科目を前提とし、人間関係論などの専門教養科目や看護専門職論、生活援助・療養援助技術を用いて対象理解のための実践を学ぶ。</p> <p>本科目は保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。</p>
成績評価の方法	<p>実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。</p>
学習相談・助言体制	<p>実習中は毎日開始前と終了時にカンファレンスを実施し、学びの内容や互いの課題を共有し、教員、学生とで解決に取り組む</p>
授業改善の特記事項	<p>実習中は実習のてびき、老年保健看護Ⅰの資料を携帯し、理論と実践を行き来できるように促す。</p>
備考	<p>実習施設：老人福祉センター 老人憩いの家</p>

科目コード	35135	授業科目	老年保健看護実習Ⅱ (Geriatric Nursing PracticumⅡ)			担当教員	○田場由紀 砂川ゆかり 光来出由利子 他 実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目 (保・看)	授業形態	実習	
選択必修	必修	時間数	90時間					
履修条件	前提科目	老年保健看護演習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	認知症を持ち、多様な場でケアを受けつつ治療や療養生活をしている高齢者の健康課題を、その家族を含めて総合的に理解し、高齢者の尊厳を支えるための具体的な看護実践ができる能力と、自己を振り返り課題を見いだす能力および、関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 治療・療養の場および生活の場で認知症に伴う症状やコミュニケーション上の課題を把握し、必要な支援を行うことができる。</li> <li>2. ケアの場の特性を踏まえ、対象および家族の地域文化を含めた生活を理解し、医療ニーズ、生活ニーズをアセスメントし、看護問題を導くことができる。</li> <li>3. 対象のストレングスと社会資源を活用し、協働連携による本人および家族への看護計画、実施、評価ができる。</li> <li>4. 一連の看護実践をふり振り返り、自己の課題を見だし、今後の学習課題を述べるができる。</li> </ol>							
授業回数	授業内容及び計画						指導教員	
10日間	<p>実習内容 &lt;共通&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象との関わりや生活史を踏まえ、対象の体験世界と現実世界のずれを理解する。</li> <li>2) 認知症に伴う症状やコミュニケーション上の課題を把握し、必要な支援を行う。</li> </ol> <p>&lt;生活の場（グループホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業所など）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 対象者や家族、ケア提供者との関わりから、対象の生活機能障害を把握する。</li> <li>4) 対象の生活史、生活様式と対象の持つ地域文化を把握する。</li> <li>5) 過去に対象に関わってきた（または対象に関わりたと思っている）インフォーマル・サポート（家族・親族、友人・知人・隣人等）と活用可能なフォーマル・サービス（専門職者等）の実際を学び、社会システムと高齢者のつながりとの関係を理解する。</li> <li>6) 対象のストレングスを踏まえた上で全体像（身体的状況、心理的状況、社会的状況）をアセスメントし、対象および家族の医療ニーズ、生活ニーズを導く。</li> <li>7) 対象のニーズと家族のニーズの共通と相異を把握する。</li> <li>8) 対象の認知機能に応じた自己決定の方法を見つける。</li> <li>9) 対象の尊厳を支えるための看護計画を立案し、看護計画検討会で提案する。</li> <li>10) 援助可能な計画を検討し、教員や実習指導者の下で計画に沿ったケアを実施する。</li> <li>11) 対象のアセスメント、計画、実施のプロセスを振り返り、実施したケアの評価を行う。</li> <li>12) 実施したケアの評価を踏まえ、対象の尊厳を支えるための今後のケアの方針を提案する。</li> <li>13) 生活機能障害を抱えながらの暮らしを支える協働連携について考察する。</li> </ol> <p>&lt;治療・療養の場（病院、介護老人保健施設、介護療養型医療施設など）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14) 対象に提供されているケアに参加しながら、対象の自立度、健康状態、生活状況、生活機能障害を把握する。</li> <li>15) 対象や家族、ケア提供者と協働し、それぞれが果たしている役割を把握し、看護の役割機能を学ぶ。</li> <li>16) 対象の生活の場（主に自宅）に関する物的環境、人的環境について、面接や家庭訪問、サービス調整会議、ケアカンファレンスなどを通して把握する。</li> <li>17) 6)～12)を実施する。</li> <li>18) 治療・療養の場で生活の継続性を支える条件について考察する。</li> </ol>						田場 砂川 光来出 他	

テキスト	老年看護学概論, 南江堂, 2011. 老年看護学技術, 南江堂, 2011.
参考文献	ケアマネジャー実践ガイド 医学書院 1997
他科目との 関連	老年保健看護Ⅰ、老年保健看護実習Ⅰ、老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習の既習科目を前提とし、広域・基盤看護科目である精神保健看護や地域保健看護の既習科目を踏まえ、認知症をもつ高齢者の生活の場にあわせた課題解決の実際を学ぶ。 本科目は、保健師課程、看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の 方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・ 助言体制	実習中は毎日開始前と終了時にカンファレンスを実施し、学びの内容や互いの課題を共有し、教員、学生とで解決に取り組む。
授業改善の 特記事項	実習中は実習のてびき、老年保健看護Ⅰ・Ⅱの講義資料を携帯し、理論と実践を行き来できるように促す。
備考	実習施設：病院、介護療養型医療施設、介護老人保健施設、グループホーム、小規模多機能事業所など

科目コード	33511	授業科目	助産実践論 (Theory of Midwifery)			担当 教員	○賀数いづみ 川満恵子 (非常勤)	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目		授業	講義
選択必修	選 択	時間数	30時間	分類			形態	
履修条件	前提科目	なし						
	その他	助産師国家試験受験資格関連科目履修者に限る						
授業概要	助産業務に関わる実践の科学的根拠を人文・社会・自然科学等の広範な科学の学際的視点から、助産学の基礎概念、助産業務管理の基礎を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産の基礎概念が説明できる。</li> <li>2. 周産期医療における質保証の説明ができる。</li> <li>3. 助産実践の倫理について具体例を用いて説明できる。</li> <li>4. お産の歴史と文化について説明できる。</li> <li>6. 日本および世界の母子保健の動向と課題、周産期医療システムについて説明できる。</li> <li>7. 周産期医療の質およびリスクマネジメントについて説明できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	助産師とは					1. 第1章	賀 数	講 義
第2回	助産師が行うケア					1. 第2章	〃	
第3回	助産実践の倫理					1. 第3章	〃	
第4回	女性の健康と人権					1. 第4章	〃	
第5回	日本の母子保健の動向と課題					1. 第5章	〃	
第6回	世界の母子保健の動向と課題					1. 第6章	〃	
第7回	お産の歴史と文化					1. 第7章	川 満	
第8回	周産期医療における質と安全の保証					2. 第1章	〃	
第9回	日本の周産期医療システム					2. 第2章	〃	
第10回	世界の周産期医療システム					2. 第3章	〃	
第11回	助産サービスの質管理					2. 第4章	〃	
第12回	助産サービス管理の実際					2. 第5章	〃	
第13回	地域における助産サービス管理の実際					2. 第6章	〃	
第14回	周産期におけるリスクマネジメント					2. 第7章	〃	
第15回	まとめ						賀 数	
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工藤美子 (責任編集). 助産師基礎教育テキスト 2019 年版 第1巻 助産概論, 日本看護協会出版会.</li> <li>2. 成田伸 (責任編集). 助産師基礎教育テキスト 2019 年度版 第3巻 周産期における医療の質と安全, 日本看護協会出版会.</li> </ol>							
参考文献	福井トシ子 (編集). 新版助産師業務要覧(基礎編) 第3版 2019 福井トシ子 (編集). 新版助産師業務要覧(実践編) 第3版 2019							
他科目との 関連	助産業務の基本的知識を修得し、助産実習に臨む。							
成績評価 の方法	クラスへの参加度15%、レポート15%、試験70%							
学習相談・ 助言体制	学生が主体的に自己学習できるよう議論の場を設定し、質問及び疑問に対応する。							
授業改善の 特記事項	主体的に授業に参加できるよう助産実践の場を想定した課題設定等を工夫する。							
備 考	学生は事前学習をして講義に臨むこと。 テキストは最新版を使用する。 助産師国家試験受験資格関連科目履修者は必修。							

科目 コード	33521	授業 科目	基礎助産学 (Fundamentals of Midwifery)			担当 教員	○井上松代 賀数いづみ 知念久美子 佐伯宜久 橋口幹夫 (非常勤) 源川隆一 (非常勤)	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	3単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義・演習	
選択必修	選 択	時間数	45時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	助産師国家試験受験資格関連科目履修の者に限る						
授業概要	助産活動を行う基礎として、妊産褥婦および胎児・新生児の形態・機能の生理的・病態変化、異常時の診断・治療を学習する。							
到達目標	1. マタニティサイクルの正常からの逸脱の診断とケアについて説明できる。 2. ハイリスク新生児の病態と診断、ケアについて説明できる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	妊婦の健康診査：フィジカルアセスメント、NST				1.P.1-76 3.第1-2章,第4-5章,7.P.158-168	井 上	講 義	
第2回	妊婦に行なわれる検査の見方(血液・尿・膣分泌物)				1.P.62-75 3.第3章	賀 数	〃	
第3回 第4・5回	超音波診断装置の使い方 超音波診査法の実際				1.第2章,10.I- II章,10.III-IV章	橋 口 〃	演 習 〃	
第6回	出生前診断				3.第3章, 7.P.132-134, 9.P.22-36.	〃	講 義	
第7回	生活習慣が胎児に及ぼす影響(アルコール,煙草,ドラッグ) 妊娠と薬物				3. P.50-54, P.100-104, P.169-178	知 念	〃	
第8・9回	合併症妊娠Ⅰ(糖尿病合併妊娠,心疾患合併妊娠,腎疾患合併症,甲状腺合併妊娠,自己免疫疾患合併妊娠)				6., 8., 9.	橋 口	〃	
第10・11回	合併症妊娠Ⅱ(精神疾患合併妊娠,呼吸器疾患合併妊娠,妊娠外科疾患合併妊娠,血液疾患合併妊娠)				6., 8., 9.	〃	〃	
第12・13回	妊娠期の異常Ⅰ(患阻,流早産,子宮外[異所性]妊娠,頸管無力症,妊娠中の異常出血,妊娠高血圧症候群)				6., 8., 9.	〃	〃	
第14・15回	分娩期の異常Ⅰ(分娩進行の異常,分娩期の出血)				6.P.第3章 8.,9.P.199-217	〃	〃	
第16・17回	娩期の異常Ⅱ(帝王切開,産科ショック,骨盤位分娩介助法)				6., 8., 9.	〃	演 習	
第18回	先天異常(常染色体異常,薬剤の影響,遺伝子疾患など)				6., 7., 8., 9.	佐 伯	講 義	



第 19 回	会陰切開・縫合術の実際	7.	橋 口	演習
第 20 回	産褥期の異常(深部静脈血栓症, 産褥期感染症, 産褥期精神障害)	6., 8., 9.	賀 数	講義
第 21・22 回	ハイリスク新生児の病態・検査・治療 新生児の神経学的診察法、新生児の異常徴候と疾患、呼吸	6., 8., 9.	源 川	〃
第 23 回	循環障害、分娩損傷 新生児蘇生法	1. 第VI章, 5., 6., 8., 9. 第 III章, 1. 第VI章	源 川	演習
テキスト	1. 我部山キヨ子編, 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版, 医学書院, 2018. 2. 吉沢豊子編, 助産師基礎教育テキスト第2巻女性の健康とケア 日本看護協会出版会, 2018. 3. 森恵美編, 助産師基礎教育テキスト第4巻妊娠期の診断とケア 日本看護協会出版会, 2018. 4. 町浦美智子編, 助産師基礎教育テキスト第5巻分娩期の診断とケア 日本看護協会出版会, 2018. 5. 横尾京子編, 助産師基礎教育テキスト第6巻産褥期のケア 新生時期・乳幼児期のケア, 日本看護協会出版会. 2018. 6. 遠藤俊子編, 助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア, 日本看護協会出版会, 2018. 7. 進純郎, 堀内成子, 正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合, 医学書院, 2010. 8. 日本産婦人科学会/日本産婦人科医会, 産婦人科診療ガイドライン産科編, 日本産婦人科学会, 2016. 9. 大鷹美子訳, ウイリアムス臨床産科マニュアル改訂第2版, メジカルビュー社, 2014. 10. 谷垣伸治, 妊婦健診に一步差がつく産科超音波検査, 医学書院, 2014.			
参考文献	ALPHA note, ゆいノート, 他開講時提示			
他科目との関連	臨床で実際に実践されている検査、診断、治療を理解しておくことで、助産診断・技術学および助産実習での基礎知識となる。			
成績評価の方法	試験80%、プレゼンテーション10%、講義への参加度(質疑応答) 10%			
学習相談・助言体制	講義終了時に質問できるよう時間を取る。			
授業改善の特記事項	臨床で実践されていることをイメージしやすいように、事例の紹介をする。超音波検査の演習や縫合の演習で技術の基本を理解できるように使用物品や環境を整えている。			
備考	事前学習と復習を確実にを行うこと。 ＊テキストは最新版を使用します。事前・事後学習で提示したテキスト番号およびページ(章)は変更の可能性があります。授業内容に該当するテキストおよびページを各自で探して事前・事後学習しておくこと。			

科目 コード	33533	授業 科目	助産診断・技術学 (Diagnosis and Practice of Midwifery)			担当 教員	○賀数いづみ 井上 松代 西平 朋子 知念久美子 下中 壽美 他	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	5単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義・演習	
選択必修	選 択	時間数	90時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	助産師国家試験受験資格関連科目履修者に限る						
授業概要	妊産褥婦並びに新生児の健康診査と、健康診査に基づく助産ケアについて学習する。また、正常な産婦への分娩介助法も習得するとともに、緊急時の対処法についても学習する。さらに、周産期の健康生活の維持増進並びに育児に関する保健指導法も学習する。							
到達目標	1. マタニティサイクルの助産診断と援助について説明できる。 2. 模擬事例を通して正常分娩介助の基本的技術を習得する。 3. 新生児の助産診断と援助について説明できる。 4. ハイリスク妊産褥婦・新生児の看護について説明できる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～3回 第4～5回 第6～7回 第8回	妊婦の健康診査、妊婦のセルフケア能力向上への支援 事例Ⅰ①妊娠経過のアセスメントとケア ②安定した妊娠生活の維持と出産準備への支援 妊娠期の保健指導 (発表)				4巻1～5章  4巻6～7章	井上 " " "	講義演習 " " "	
第9～10回 第11～12回 第13～14回 第15～16回	分娩進行に関わる診断技法 産婦の分娩への適応状態の診断方法 分娩第1期～第3期の産婦のアセスメントと援助 分娩進行とケアの実際 ①：呼吸法・リラクセス法 ②：補助動作				5巻1～3章  5巻4章 4巻7章	賀数 " 西平 下中	講義演習 " 講義演習 演習 "	
第17～18回 第19～20回 第21～22回 第23回 第24～25回 第26～27回	事例Ⅱ①産婦の入院時アセスメントと援助 ②分娩進行状態のアセスメントと援助 分娩期の助産計画立案：初期計画・分娩予測と援助 " (発表) スタンダードケアプランの作成 分娩介助技術				5巻5～6章	西平 " " " " 下中・他	" " 講義・演習 演習 " "	
第28～29回 第30回 第31～32回	正常に経過している褥婦のアセスメントと看護 母乳育児支援 正常に経過している新生児のアセスメントと看護				6巻1～3章 6巻4章 6巻(新生児) 1～4章	知念 " 下中	講義 " " "	
第33回	褥婦及び新生児に関する保健指導案の検討				6巻5～6章	知念	"	
第34～35回 第36～37回	事例Ⅲ：褥婦への母乳育児支援のためのアセスメントと援助 事例Ⅳ：新生児の生理的黄疸					" 下中	演習 " " "	
第38～39回 第40回 第41～42回	ハイリスク妊産婦のヘルスアセスメントと看護 ハイリスク褥婦のヘルスアセスメントと看護 ハイリスク新生児のヘルスアセスメントと看護				7巻1～3章 7巻4章 7巻5章	井上 知念 下中	講義 " "	
第43～44回 第45回	客観的臨床技術試験 (OSCE：妊婦・産婦・褥婦・新生児) 分娩介助実技試験					全員 "		

テキスト	森恵美/他(責任編集):助産師基礎教育テキスト第4巻,第5巻,第6巻,第7巻日本看護協会出版会,我部山キヨ子:臨床助産師必携,医学書院 北川真理子他(編集):今日の助産,南江堂 大鷹美子訳:ウイリアムズ臨床マニュアル第2版 MEDICAL VIEW 日本助産診断・実践研究会(編著):マタニティ診断ガイドブック,医学書院 NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会:母乳育児支援スタンダード,医学書院 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会(編集監修)産婦人科診療ガイドライン産科編
参考文献	荒木 勤 著:改訂版 最新産科学 正常編 文光堂 荒木 勤 著:改訂版 最新産科学 異常編 文光堂
他科目との関連	モデルを活用し基本的助産技術を習得して助産実習に臨む。
成績評価の方法	筆記試験(60%) OSCE・分娩介助実技試験(30%) レポート・クラスへの参加度(10%)
学習相談・助言体制	学生が自己学習できるよう実習室及び演習模型を整備する。演習には実習指導教員も参加し、学生の質問及び疑問に丁寧に対応する。
授業改善の特記事項	学生の理解を助け、主体的に授業に参加できるよう視聴覚教材・モデル等の工夫をする。実践場面を想定した演習になるよう状況設定等を工夫する。
備考	事前学習と復習を確実に行う。技術練習は積極的に指導助言を得ること。 *テキストは最新版を使用します。提示した章は変更の可能性があります。 助産師国家試験受験資格関連科目履修者は必修。

科目 コード	33541	授業 科目	ウィメンズ ヘルス サイエンス (Women's Health Science)			担当 教員	○賀数いづみ、井上松代、 西平朋子、知念久美子 佐伯宣久 涌谷桐子 (非常勤講師) 三浦耕子 (非常勤講師)	
実務経験：あり								
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目	専門関連科目		授業	講義
選択必修	選 択	時間数	30時間	分類			形態	
履修 条件	前提科目	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ、人体の構造と機能演習Ⅱ、疾病論Ⅰ、 疾病論Ⅱ、周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ						
	その他	なし						
授業概要	リプロダクティブヘルスに焦点をあて、女性のライフサイクル各期に特徴的な疾患並び に健康の保持増進のための援助技術を学習する。							
到達目標	1. 女性のフィジカルアセスメントができる。 2. ライフサイクル各期の女性の特徴とケアについて説明できる。 3. 女性特有の身体的心理社会的問題を列挙し、説明できる。 4. 性科学の概念を理解し、セクシャリティについて述べるができる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～2回	女性の身体のしくみ 1. 成人の身体のしくみ 2. 女性の生理学 3. 月経障害の検査、診断、治療 4. 不妊症の検査、診断、治療				1. 第1章 1. 第3章 2. 202-219 2. p2-51 2. p226-268 3. 不妊、女性医学	涌 谷	講 義	
第3～4回	女性が発症しやすい疾患の検査、診断、治療 1. 子宮と付属器の疾患 a. 子宮腫瘍 (がん、肉腫、子宮筋腫、子宮腺筋症) b. 卵巣腫瘍 (がん、卵巣嚢腫) c. 子宮内膜症 2. 思春期・更年期・老年期に発症しやすい婦人科疾患							
第5回	ドメスティックバイオレンスに悩む女性の現状と支援				1. 第3章	井 上		
第6回	災害時の女性への支援				〃	賀 数		
第7回	生涯における女性のケア 1. 女性の生涯と社会の移り変わり				1. 第2章	〃		
第8回	2. 思春期女性のケア				1. 第2章	井 上		
第9回	3. 成熟期女性のケア				〃	知 念		
第10回	4. 中高年女性のケア				〃	賀 数		
第11回	性科学				1. 第4章	知 念		
第12回	性の多様性 性分化疾患				1. 第5章	佐 伯		
第13回	性同一性障害 同性愛				2. p60-75	井 上		
第14回	性感染症とヘルスプロモーション				1. 第6章 2. p81-93	西 平		
第15回	セクシュアルヘルス				1. 第7章	〃		

テキスト	1. 吉沢豊予子（責任編集）：助産師基礎教育テキスト2019年版 第2巻 女性の健康とケア. 日本看護協会出版会 2. 医療情報科学研究所：病気がみえるVol.9 婦人科・乳腺外科 MEDIC MEDIA 3. 日本産科婦人科学会、日本産科婦人科医会：産婦人科診療ガイドラインー婦人科外来編
参考文献	周産期保健看護Ⅰ、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、周産期保健看護Ⅱで使用したテキスト及び参考文献
他科目との 関連	周産期保健看護Ⅰ、疾病論Ⅰと関連する。 <u>助産師国家試験受験資格関連科目の履修希望者は必修。</u>
成績評価 の方法	レポート10点、試験90点
学習相談・ 助言体制	毎回の講義終了後に質問を受ける時間をもうけ、疑問などの相談を受ける。
授業改善の 特記事項	学生の理解が深められるよう課題・事例（場面）設定の工夫、視聴覚教材・模型等を活用する。 学生が主体的に授業に参加できるようディスカッションを行いながら講義を行う。
備考	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、事前学習をして臨むこと。 テキストは最新版を使用する。表示した頁の変更もあります。

科目 コード	33554	授業 科目	助産実習 (Midwifery Practicum)			担当 教員	○賀数いづみ 井上松代 西平朋子 知念久美子 下中壽美 他	
							実務経験：あり	
開講年次	4年次 前期	単位数	8単位	科目	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	選 択	時間数	360時間	分類				
履修 条件	前提科目	ウィメンズヘルスサイエンス、助産実践論、基礎助産学、助産診断・技術学						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を終了していることも条件として追加される。助産師国家試験受験資格関連科目履修者に限る。						
授業概要	周産期における母児管理を学び母子保健の専門家としての実践能力を身につける。正常経過にある産婦が主体的に出産に取り組めるよう助産を展開する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期にある人々やその家族の意思決定を尊重し、対象者が主体的役割をとれるよう支援できる。</li> <li>2. 妊産褥婦および新生児の助産診断に基づいて助産過程の展開ができる。</li> <li>3. 正常分娩の介助ができる。</li> <li>4. 産婦・褥婦・新生児とその家族が親子関係・家族関係を確立するために必要な看護について説明できる。</li> <li>5. ハイリスク新生児に必要な基本的看護が実践できる。</li> <li>6. 母子保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整について、助産師の役割を説明できる。</li> <li>7. 助産学生として実践したことを振り返り、自己の学習課題を明確にすることができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
8週間	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 継続事例として初産婦1例を妊娠中から受け持ち、妊娠・分娩・産褥（入院中から産褥1か月）の健康診査、保健指導、分娩介助、新生児の健康診査、保健指導を行う。</li> <li>2. 分娩目的で入院した産婦の分娩介助および産後の母子ケアを行う。</li> <li>3. 異常分娩（吸引・鉗子分娩）の見学または部分的介助、帝王切開術の見学、ハイリスク新生児の看護を学ぶ。</li> <li>4. 指導助産師のもと、児受けを行い出生直後の新生児の看護を学ぶ。</li> <li>5. 産科棟および助産所における管理と助産業務の実際を学ぶ。</li> </ol> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前に実習科目担当教員及び施設職員からオリエンテーションを受ける。</li> <li>2. 初産婦1例を継続事例（妊娠期～1か月健診まで）として受け持ち、教員の指導のもと、妊婦健診時の健康診査・保健指導、分娩介助、産後入院中の母子ケアを行う。退院後は、家庭訪問（退院後1週間以内）、1か月健康診査および必要な保健指導を行う。</li> <li>3. 分娩介助を10例（継続事例1例を含む）行う。</li> <li>4. 指導助産師のもと児受けを2例以上行う。</li> <li>5. 異常分娩や帝王切開術の見学実習を行う。</li> <li>6. NICUで1事例を2日間受け持ち、ケアを行う。</li> <li>7. 継続事例の記録1例、一般事例の記録9例、帝王切開見学、NICU実習の記録は所定の記録用紙にまとめ、提出する。</li> <li>8. 産科病棟師長に同行または説明から、助産が行われる場の管理及び助産業務について見学実習を行う</li> <li>9. 助産所の管理について見学実習を行う。</li> <li>10. 事例検討会：実習中に受け持った10例の中から1例を選択し焦点を決め、ケア過程の分析を行い、発表及び検討会を行う。</li> </ol>						賀 数 井 上 西 平 知 念 下 中 他	

テキスト	助産実習の手引、講義・演習で使用したテキスト
参考文献	荒木勤 改訂版最新産科学正常編（改訂版）/異常編（改訂版）文光堂 「母乳育児成功のための10ヵ条」の実践 BFHI翻訳編集委員会：UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドベーシックコース 医学書院 涌谷桐子：ペリネイタルケア夏季増刊 母乳育児支援ブック他
他科目との関連	周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、疾病論Ⅰ・疾病論Ⅱ、周産期保健実習Ⅰ、周産期保健実習Ⅱ及び助産関連科目を復習して実習に臨むこと。
成績評価の方法	実習態度、カンファレンスへの参加状況、実習記録、事例検討会、実習施設の指導責任者の情報を参考に、実習科目担当者が総合的に評価する（知識・技術面60%、態度40%）。詳細は、手引きの助産実習評価票（中間評価・最終評価）参照。
学習相談・助言体制	指導教員や臨床指導者への相談および指導助言を受けることができるよう、実習指導体制を整える。
授業改善の特記事項	実習前および実習中、集中的に基本的看護技術の練習が可能である。
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護技術及び妊産褥婦・新生児に必要な看護技術をモデル人形で十分練習して実習に臨む。妊産褥婦に必要な保健指導教材を実習に活用できるよう準備して実習に臨む。</li> <li>・事前学習として、ALOHAノート・ゆいノートを復習しておくこと。</li> <li>・助産師国家試験受験資格関連科目履修者は必修。</li> </ul>